

来週の市場とレート予想

	3/13(月)	3/14(火)	3/15(水)	3/16(木)	3/17(金)
無担保O/N			△0.080% ~ 0.001%		
銀行券	+ 1,100	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 15,300	+ 4,000	△ 16,000	+ 4,000	+ 7,000
資金需給	△ 14,200	余 4,000	△ 16,000	余 4,000	余 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	源泉税揚げ	国債発行・償還(2年)		
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,400 国債補完供給 + 300 CP等買入 △ 600 社債等買入 △ 100				貸出支援 △ 18,800
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300	短国買入 + 2,500 国債買入 + 10,000			
(日本)	機械受注(1月) 企業物価指数(2月)	日銀営業毎旬報告(3月10日現在) 日銀の保有する国債の銘柄別残高 日銀の国庫短期証券の銘柄別買入れ額	日銀金融政策決定会合(1日目)	日銀金融政策決定会合(2日目) 黒田日銀総裁会見 対外対内証券売買(前週分)	資金循環統計(10-12月期)
(海外)	米 労働市場情勢指数(2月) 欧 ドラギECB総裁講演(フランクフルト)	米 FOMC(15日まで) 米 生産者物価指数(2月) 米 ムルケル独首相訪米 トランプ大統領と会談 欧 ユーロ圏鉱工業生産(1月)	米 FOMC声明発表、経済予測 米 イェレンFRB議長記者会見 米 NY連銀製造業景況指数(3月) 米 CPI(2月) 米 小売売上高(2月) 米 NAHB住宅市場指数(3月) 米 連邦債務上限の適用停止期間が終了 米 入国制限に関する大統領令に対し、ハワイ州連邦地裁が審問	米 住宅着工件数(2月) 米 週間新規失業保険申請件数(3月11日終了週) 米 求人件数(1月) 米 トランプ政権、予算概要を議会に提出 米 入国制限の新大統領令発効 欧 ユーロ圏CPI(2月、改定値)	米 鉱工業生産指数(2月) 米 シカゴ大学消費者マインド指数(3月速報値) 米 景気先行指標総合指数(2月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、324兆6,300億円から始まり、その後7日に国庫短期証券・国債買入オペ、を主因に増加し、週末は328兆200億円となった。

無担保コールON物は週初、前週末に続きビッドが厚く同加重平均金利は△0.038%から始まった。その後も堅調な地合いは続き、加重平均金利は7日△0.035%、8日△0.032%、9日△0.027%と上昇し続けたが、週末10日は前日対比でビッドが薄くなり、△0.029%となった。

ターム物では月内物を中心に△0.02~△0.01%のレンジで出合が散見された。

日銀は9日、当座預金のマクロ加算残高にかかる基準比率(2017年3月~2017年5月積み期間適用分)を17.0%に定めた。来週は、国内では日銀金融政策決定会合(15・16日)、海外では、FOMC(14・15日)、米連邦債務上限の適用停止期間終了(15日)、米トランプ政権予算概要議会提出(16日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.400 ~ △0.200
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約5,300億円で、週間償還額の約5,800億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。CP等買入オペは、オファー額の前回比2,000億円増額に対し、応札額は予想以上に多かったものの、次回以降のマイナス金利の進行を睨み、按分レートは△0.009%へと低下した。発行レートについては、引き続き投資家の運用ニーズが強く、期内物では0.001%割れでの出合いとなった。期越物では更に強めの出合いも見られた。

現先レートの中心は、△0.100%~0.000%程度で推移した。

来週の償還額は、約8,700億円となっている。17日に、CP等買入オペ(5,000億円程度)のオファーが予定されている。

<TDB>

9日に国庫短期証券3M第669回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.4006%(前回債△0.3326%)、平均落札レートは△0.4459%(同△0.3466%)と前回債と比べて利回りは大きく低下した。セカンダリーは3Mで△0.37%近辺の地合となっている。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週14日に1Y、15日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.13%~△0.14%の出合いから始まり、週央にかけて△0.10%近辺までレートが戻る展開となった。短国3Mの発行日となる13日受渡しでは、△0.08%台までレートが上昇。週末には国債・国庫短期証券買入れオペがオファーされたがレート低下には至らず、△0.085%~△0.09%で多く取引された。SC取引では、週を通して5年130回債の引合いが多く、△0.30%~△0.40%で概ね取引されていたが、週後半は△0.50%を超える出合いも一部見られた。他2年370・371・372・373回債、5年126・127・128・129回債、10年333・334・344・345回債、20年158・159回債、30年51・52・53回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。